

日本歯科東洋医学会 東北支部設立総会

日時：平成 22 年 11 月 5 日（金）午後 5：00～

場所：郡山駅前 ビックアイ 第 1 会議室

司会進行 東北支部副支部長

田中健一

<田中副支部長>

定刻になりましたので、ただ今より日本歯科東洋医学会東北支部設立総会を開催致します。本日は週末を控え、またお忙しい中、郡山において下さいまして有難う御座います。心から感謝申し上げます。本日の司会は、私、岩手県盛岡市の田中と申します。今日の総会がスムーズに進行するように皆様方のご協力を頂きながら進めて参りたいと思っておりますので宜しくお願い致します。まず最初に開会の辞、熊谷先生宜しく申し上げます。

<熊谷理事>

本日は遠いところ、またお寒い中、郡山にお越し頂きまして誠に有難う御座います。植木会長には、東北支部を作れと再三に渡って催促されて、ようやくこの日を迎えることが出来ました。本日、道は切り開かれたわけです。その道を踏み固め広げていくのが我々の使命だと思っております。どうか皆さんのお力をお借りしましてこの大会を大いに盛り上げて成功することをお祈り申し上げます。まして私の開会のご挨拶と致します。

<田中副支部長>

続きましてご来賓の方々よりご挨拶を頂戴致したいと思っております。まず最初に日本歯科東洋医学会会長、植木 稔 先生、宜しくお願い致します。

<植木会長>

皆さんこんにちは、今日は久しぶりに晴れました。晴れ男ばかりの集まりかと思えます。先程、熊谷先生がおっしゃった様に東北支部を早く作れと五月蠅く申しましたのはこの私で御座いますが、これも初代松平先生の時から全国に支部を作ってきたとまとめていこうということで、初代会長、二代会長の福岡先生、三代会長の松尾先生と各会長の念願で御座いましたが、やっと 6 代目で全国に支部の網が張られたと言うことで大変嬉しく思っております。この東北は各 6 つの県が背中合わせとなっていて難しいとお聞きしております。成田先生も熊谷先生も難しいとおっしゃっていましたが、四国でも 4 県、しかも広島を含めた中国と四国合わせてひとつになっておりますので、そんなことを言っても仕方ないと言うことを申しておりましたが、よく頑張って頂きました。

30日ほど早めではありますが、幸いにして青森までJRの新幹線が延びるという良き時に重なってこの記念日が出来たと喜んでおります。役員全員に代わりまして皆様に感謝申し上げます。

スライドお願い致します。私事で御座いますが私はベジタリアンで御座いまして何も食べられないと言うことで非情に困っております。大阪の人間はこの食べるという事に喧しいのですが、この郡山で漢方薬を使ったお米を作っている言うことが2009年11月1日読売新聞日曜版に載ってまして、そのことを昨年、九州で発表致しました。西洋の薬はエキスですから植物の中に入れると言うことは難しいと思います。漢方薬にも種類がありますが、この郡山でそういうお米が出来たと言うことを新聞で知り、来年の東北は楽しみだと九州でも言いました。無農薬研究会を作って一粒一粒が輝いていると言うことも聞いておりましたので、漢方薬で作ったお米を楽しみにして郡山に参りましたが、どこにもない・・・悲嘆落胆しているところで御座います。古代三色米なども、骨粗鬆症によいと言うことですが、ニューヨークで松井秀喜選手がわざわざ取り寄せて食べているということです。やはり身体を治すには食生活の工夫しかないと言うことで、食べるということについて色々考えさせられます。次に、これは今年の10月の新聞ですが、長生きの秘訣は食欲らしいと言うお話です。胃がびっくりする位おいしいひと皿を食べると、生への執着が増すというのです。皆が口を動かしてご飯を食べると言うことを実感することで、身体が快方に向かうことが出来るのではないかと言うことです。この食べるということの重要性は我々歯科の領分です。漢方薬や食育などそういったものをこれから是非やって頂きたいと思っております。これで挨拶の代わりと致したいと思っております。どうも皆様有難う御座いました。

＜田中副支部長＞

有難う御座います。

＜植木会長＞

それでは、支部長、前の方をお願いします。式次第には乗っておりませんが、日本歯科東洋医学会から些少では御座いますがお祝いで御座います。頑張ってください。

＜中山支部長＞

どうも有難う御座います。

＜田中副支部長＞

では次に奥羽大学歯学部保存額教室教授並びに今回の第28回の学術大会委員長でもあります横瀬敏志先生からお願い致します。

＜横瀬大会長＞皆さんこんばんは。奥羽大学の横瀬で御座います。私も東北支部のメンバーで御座いますが、今回大会を仰せつかったということで一言ご挨拶

拶させて頂きたいと思います。まず念願だった東北支部が設立したことを心からお慶び申し上げます。並びに設立といったきっかけに奥羽大学が関与できたと言うことは、大学としても大変嬉しいことでもあります。先程植木会長からお話がありましたように、実は去年ここで私たちは、食育のフォーラムをやっていた、その時、代替医療のあり方についても随分ディスカッションをしました。ところが歯科の領域においては、食育にあまり関心がないと言うような大変寂しい思いを致しました。そういった今の歯科界の中に問題を提起するという意味でも、この学会そしてこの支部の設立は大変意義のあるものだと思っております。ぜひこの学会が中心になって、歯科を元気づけ、尚かつ代替医療の最先端をいけるように頑張っていきたいと思っておりますので、これからもどうぞ宜しくお願い致します。

<田中副支部長>

ありがとうございます。お二方のご挨拶を頂きましたが、来賓席の方にせつかくおいでになって居られますのでご紹介致します。日本歯科東洋医学会副会長の藤井幸先生、同じく副会長、高橋眞一先生、同じく副会長、丹羽均先生、専務理事の河野渡先生で御座います。植木会長からご指摘がありましたように私の方でひとつ飛ばしてしまいました。あらためて式次第の2、支部長挨拶を今からやらせて頂きます。当東北支部の初代支部長であります中山孔壹先生宜しくお願い致します。

<中山支部長>

皆さん、こんにちは。ようこそ東北の地、郡山までお越し下さいました。東北はなかなか広くて、私も実は全県まわったことがないんです。四国だと八十八カ所巡りのようなイベントとかもあると思うのですが、同じ東北人でも青森からこの福島まで全県をまわったことがない人が沢山いらっしゃいます。そういう意味ではこれを契機に皆さん方に同行して頂ければと切に願っております。支部長になってから最初のご挨拶をさせて頂きたいと思います。先程植木会長がおっしゃられましたように初代会長からの念願の東北支部設立が今回叶うことが出来ました。これも偏に本部の先生方、事務局の方々そして今回役員になられた先生方、沢山の先生方のご尽力、ご協力の下にそれが叶ったのだと考えております。そういった意味で、今日からの一日を大切にしていきたいと心に誓っております。

本日は東北支部設立総会にご参列頂き誠に有難う御座います。種まきが終わりやっと小さな芽が出ました。長い年月をかけ大樹となりますようにあらためて皆様のご協力、ご高導を賜りたく何卒宜しくお願い致します。医療界に於いて本会、日本歯科東洋医学会にしかできないことがきっとあるはずで、私にははっきりとそれが見えます。その為にこれまで以上の努力、研鑽につとめてい

きたいと思います。小さな支部ですが、常に患者さんの顔が思い浮かぶ、大きな志をもった、個性豊かな一団を目指していきます。初めは小さな一歩ですが必ずや大いなる可能性の一歩となることを信じて已みません。東北支部の全員の会員の先生方を代表して、この様な誓いを立てさせて頂きました。本日は本当に遠路はるばる、この郡山の地まで足を運んで頂いて有難う御座います。どうぞ宜しくお願い致します。

<田中副支部長>

有難う御座いました。続きまして報告事項に入りたいと思います。1の第28回日本歯科東洋医学会学術大会について。奥羽大学保存学 中貴弘助教先生よりお願い致します。

<中 準備委員長>

こんばんは。宜しくお願い致します。今回の学会の準備委員長を仰せつかりました奥羽大学の中と申します。今日は郡山までお越し下さいまして有難う御座います。学会の準備状況について御報告させて頂きます。郡山の方は、2,3日前からだいぶ冷え込んで参りましたが、明日明後日の先生方の気合いで是非とも暖かい会場を作って頂きたいと思います。一般講演の方は22演題頂いております。招待講演は渡部恒三先生に来て頂きます。東北支部設立記念講演は竹村真一先生、これは中山支部長のご尽力で呼んで頂きました。あと、各スペシャリストの先生、3名をお呼びしてシンポジウムを開催する予定で御座います。学会の会場の方は概ね良好に準備の方は進んでおります。明日最終的な確認を致しまして先生方のご来場をお待ちすると言う形になっております。ただ、今回は口腔保健協会と大学の方のご協力を頂きながら、医局員が一丸となりまして手造りのような形で実施する予定で御座いますので、なにかと行き届かない点が御座いましたら宜しくお願い致します。以上で御座います。

<田中副支部長>

有難う御座いました。続きまして2の東北支部設立に関しまして中山支部長、宜しくお願い致します。

<中山支部長>

東北支部設立の経緯について、私、支部長中山からお話しさせて頂きます。十年前、岡村会長の時に私は初めて学術委員をやらさせて頂きました。その時からの懸案で御座いまして、毎年のように東北支部を作ろうという気運が高まるんですが、なかなか発足に至る課程にまでは行きませんでした。しかし一昨年に、何とか少ない人数でも勉強会を立ち上げようということになりまして、場所は郡山の、ちょうど今回皆様方が宿泊されているビューホテルで勉強会を行いました。それがある意味、東北支部の最初の一歩になった場所だと思っております。その時参加された方は、今回の理事にもなられています田中先生、熊

谷先生、成田先生と私と 4 人で各自演題を持ち寄って 2 日間白熱した討論をしました。ひとり 2 時間枠くらいでディスカッションしましたが、それが支部設立のベースになっておりまして、次の年にも支部を立ち上げるのにはどうしたらいいだろうかと言うことで、電話ですとかメールでやり取りをしておりました。そして今年、植木会長の下、しっかりとした形で今日の日を迎えることが出来ました。実際に東北支部の会員数は全体で 41 名が会員として登録しております。そのうち 20 名の先生から委任状を私の所に F A X で頂くことが出来ました。あと、7 名の先生はこの会場にいらっしゃいますので、27 名の先生方が今回この会の発足に参加して頂いたという事になります。最初の一步としては、数はまだまだ少ないけれども、これを契機にどんどん内容も濃く大きく花を咲かせたいと考えております。また、東北支部の会則についてですが、資料がお手元にあるかと思えます。他支部との大きな違いは、第 1 章第 2 条の「本会は歯科東洋医学並びに統合医療に関する技能と知識の習得を図ることを目的とする。」という所であります。先程、横瀬教授からお話があった様に、医療界、歯科界が統合医療という枠の中で働ける場面が沢山出てきていると思えます。またそのニーズも非常に高く、報道関係者からの統合医療に関する問い合わせも多くなっておりますので、歯科東洋医学の枠をどんどん広げて、統合医療に関する部分までも検索していきたいというのが、東北支部のひとつのモットーになっております。今はまだそういう意味では、初めの一步ですけれどもこれから他の支部に東北支部を見習えと言われるような状況になるように全員で頑張っていきたいと思えます。宜しくお願い致します。

<田中副支部長>

次に参ります。3 の活動内容について理事の成田先生お願いします。

<成田理事>

活動報告致します。先程、中山支部長からもお話がありましたように、2008 年 8 月 2 日、3 日の 2 日間、郡山ビューホテルアネックスにおきまして日本歯科東洋医学会東北支部第 1 回学術勉強会を開催致しました。出席者は中山支部長、田中副支部長、熊谷理事と私の 4 名が集まりまして、2 日の土曜日は午後の 3 時から 6 時まで、日曜日は午前 9 時から 12 時まで、お互いに症例を持ち寄りまして実に内容の濃い有意義な勉強会となりました。中山支部長は「矯正治療による頸椎配列の変化について」、田中支部長は「東洋医学を臨床に実践した症例について」熊谷理事は「東洋医学からアプローチする歯科医療について」そして私は「下顎骨骨折で生じた下歯槽神経麻痺患者と顎関節症 (1+3 型) の患者に鍼通電が奏功した 2 症例」と言う演題で行いました。今後の活動についてですが、会員数も少ない駆け出しの支部で御座いますので、まず新たな仲間を増やして、より力強い活動の出来る体制を整えていこうと思っております。ご来席の東北

支部の先生方にも是非お友達やお仲間に声をかけて頂ければと思います。以上です。

<田中副支部長>

続きまして 4 の役員構成で御座います。先程の報告の中でお話ししておりますけれども、初めてお顔合わせする方も居られると思いますので改めて紹介申し上げます。支部長の中山孔壹先生、理事の横瀬敏志教授、理事の成田昌穂先生、理事の熊谷雅毅先生、今日はお見えになっておりませんが理事の猪苗代雅俊先生、そして私、副支部長の田中健一で御座います。

それでは次に参りたいと思います。5 の支部の会則につきまして熊谷理事よりお願い致します。

<熊谷理事>

東北支部の会則についてです。先程支部長の方からお話がありましたが、第 1 章総則として第 2 条に、「本会は歯科東洋医学ならびに統合医療に関する技術および知識に習得を図ることを目的とする」となっております。お手元の資料に書いてある通りで御座いますので端折って参ります。第 3 条は中山歯科矯正医院に事務局を置くこと。あと第 2 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章は記載の通りであります。第 6 章の事業、第 14 条「本会の目的達成のために必要な事業を行う。」とありまして、一番の目的は東北支部の会員数を増やすと言うことで御座います。以上です。

<田中副支部長>

有難う御座いました。5 の協議事項で御座いますが支部の方では何も用意しておりません。本日ご来場の方々に協議事項があれば承りたいと思いますが、御座いますでしょうか？ない様ですので、協議事項は終わります。

それでは先程、来賓の藤井副会長にご挨拶をお願いしておりました。遅くなりましたが一言お願い致します。

<藤井副会長>

本日は誠におめでとう御座います。東北支部設立にあたっては植木会長からしつこいくらいに動くように言われました。また、今回の 28 回学術大会につきましては、たまたま日本歯学会で横瀬教授とお会いして、その時に是非御協力をお願いしました。横瀬教授は武田先生の同級生ということもでもありますし、私も糸山先生の所に顔を出していたこともあり、よく存じておりましたので無理矢理お頼みしまして引き受けて頂きました。たぶん成功裏に終わると思いますが、皆様方のご協力をお願いしたいと思います。東北支部設立の件に関しては、中山先生や田中先生にも、しつこいくらいに何度もお電話させて頂きました。今日の日を迎えることが出来たことは大変嬉しく思っております。私が専務になったばかりの時に関西支部設立。そのあと九州支部、中国四国支部、

そして北海道支部と 4 つの支部設立に専務として携わって参りました。こうして東北支部が誕生して、全国網羅できたというのは嬉しい限りでございます。東北支部にはどんどん会員を増やして行って欲しいのですが、関東甲信越とも近いですので合同で活動していくということも出来るのではないかと思っておりますので、そういったことでも宜しくお願ひしたいと思ひます。本日は本当におめでとう御座います。

<田中副支部長>

誠に拙い司会で、大変ご迷惑をお掛けしました。皆様のご協力によりまして、本日の総会を滞りなく終えることが出来ました。それでは閉会の辞を理事の成田先生よりお願ひ致します。

<成田理事>

お陰様をもちまして東北支部設立総会を無事終了することが出来ました。皆様のご協力に深く感謝致します。まだまだ未熟な支部で御座いますので、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻の程をお願ひ致しまして閉会と致します。本日はどうも有り難う御座いました。

<田中副支部長>

どうも有り難う御座いました。ちょうど定刻に終了致しました。

成田昌穂先生 記